

研究実施のお知らせ

2019年01月08日 ver.1.0

研究課題名

門脈塞栓後再開通予防のためのコイル充填率について

研究の対象となる方

2015年1月から2018年12月までの間に島根大学医学部附属病院で門脈塞栓術を施行された患者様

研究の目的・意義

肝臓を一度に大量に切除すると、残る肝臓の容量が不足して「肝不全」という合併症を発症することがあります。大量肝切除が必要な場合、対側の温存する肝臓容量を増大させる目的で、切除する予定の肝臓を養う「門脈」という血管を予め塞栓する「門脈塞栓術」が施行されます。残存肝容量増大のためには門脈塞栓術と肝切除の間隔を3～4週間あける必要があります。この間に門脈血栓が溶解（再開通）する場合があります。再開通が生じた場合、十分な残存肝容量増大が得られず、手術不能となることがあります。

よって、当院では再開通予防のため、塞栓した門脈基部にコイル塞栓を行っています。しかしながら、再開通を予防するために必要なコイル充填率（血管体積に対するコイル体積の割合）は不明です。

研究の目的は、門脈塞栓後再開通予防に必要なコイル充填率を明らかにすることです。必要なコイル充填率を明らかにすることにより、門脈塞栓後再開通予防に役立てることができると思います。

研究の方法

2015年1月から2018年12月の間に島根大学医学部附属病院で門脈塞栓術を施行された方の情報、採血結果、画像所見を解析し、評価致します。研究資料にはカルテから以下の情報などを抽出し使用させていただきますが、匿名化し、個人情報などが漏洩しないようプライバシーの保護には細心の注意を払います。

- ・年齢、性別、既往歴、過去の治療歴、内服歴など
- ・血液検査データ
- ・CTや核医学検査などの画像検査データ、手術記録

研究に関するデータ及び関連資料は研究の終了を報告してから少なくとも5年間保

管し、その後匿名化した状態で廃棄（消去）します。

研究の期間

島根大学医学部、医の倫理委員会の承認日から 2023 年 3 月 31 日

研究組織

この研究は島根大学医学部 放射線医学講座が行います。

研究責任者（研究で利用する情報の管理責任者）：

島根大学医学部 放射線医学講座 丸山光也

試料（検体）・情報の利用停止

ご自身の情報をこの研究に利用してほしくない場合には、ご本人または代理人の方からお申し出いただければ利用を停止することができます。

なお、利用停止のお申し出は、2019 年 5 月までをお願いいたします。それ以降は解析・結果の公表を行うため、情報の一部を削除することができず、ご要望に沿えないことがあります。

相談・連絡先

この研究について、詳しいことをお知りになりたい方、ご自身の情報を研究に利用してほしくない方、その他ご質問のある方は次の担当者にご連絡ください。

研究責任者：島根大学医学部 放射線医学講座 丸山光也

〒693-8501 島根県出雲市塩冶町 89-1

電話 0853-20-2289

E mail:mitunari@med.shimane-u.ac.jp